



オフィスをデータ化

VRoffice®による未来の働き方

システムインテリジェント株式会社
代表取締役社長 長谷川 堯一

オフィスの仮想化の考察

オフィスVR (Virtual Reality) で 実現して仕事ができないか

- どこにいても仕事ができる・通勤不要・時間のコントロールが容易
- オフィスのデザインが多種多様
- 会議室や居室を沢山作れる、サイズも自由自在
- 現状復帰費用・什器備品が不要
- 個室を作らなくても、騒音・雑音・会話の音の制御が自由自在
- 情報システムの設計・構築の自由度が高い
- 電話・FAXの仮想化

想定されるユーザー

- 次のようなユーザー・会社を想定している
- 在宅勤務、遠隔勤務など、既存の大、中、小企業
- 個人で仕事をしている人たちが一時的にSNSなどで集まって、期間限定で仕事をするためのスペース(会社の仮想化)

オフィスをVR実現

- VR技術を使って、オフィスの仮想化を実現することを目指している。
- 本日は、後半に、現在開発中のシステムを実演する。
- サービス名：VRoffice®

※ VRoffice® はシステムインテリジェント株式会社の商標登録です

距離を超えたコミュニケーション

- クラウドサーバーによって実現を行なうことで、遠距離の人同士が同じオフィスに出社が可能になる
- 打ち合わせや、会議だけでなく、共同作業や同じ場所にいるという感覚が手チームワークの強化につながる
- 「世界のあらゆる人にオフィスワークを」ということで、このシステムを実現することは社会にとって有意義である

オフィスのデータ化

オフィスのデータ化

- 仮想空間にオフィスを実現して仕事をすることは、オフィスワークのすべてをデジタル化し、データ化することである
- 書類や文書、会議や打ち合わせだけでなく、社員の行動、会話などがすべてデータ化される
- センサーやカメラなどのIoT機器を使わなくても、オフィスワークのすべてがデータ化することは、オフィスワークのビックデータ化である
- データ化されたオフィスワークをKnowledge baseとして使うことも容易になる(検索、再利用が容易)

VRoffice®の 実現化に向けて

VRの表示について

- 当初ゴーグルを使うことを検討し、実験を行なったが、現時点で安価で長時間使えて、なおかつ高解像度のものが手に入らない
- 仮想空間にオフィスを表示するということを目指している
ので、一般的なモニターに表示することにフォーカスすることにした
- 幅の広いものや、360度表示ができるプロジェクターなどが存在するため、VRoffice®ブースに設置

実現について

- オフィスの位置情報や会話、行動などを相互にやりとりするため、クラウド上にサーバーを設置
- クライアント側には仮想空間を表示するプログラムを実行し、クラウドサーバーに接続
- パソコンと電話がないと仕事ができない会社が多いので、まずはそれらをVR空間で使えるようにすることを目指している。
- 電話は、サーバー側に交換機を設け、IP電話として公衆網に接続可能にする

VRoffice®の応用

応用

- オフィスだけでなく、店舗を出店したり、イベントや会議を開催したりすることも可能だろう。
- 仮想通貨を導入して、仮想空間で通貨のやりとりも行なえるようにもできる。
- といったいろいろなアイデアが考えられる、しかし、あえてVR化をオフィスに絞込み、オフィスのデーター化など、オフィスのVR化ということに絞り込んでいる。
- なんでもできるといったことで、目的があいまいになり、参加したり、ビジネスを目指している人たちが離れていくことを懸念している。

VRoffice®移動

この後は、VRoffice®に移動します。